

1. 事業現場に対する意見等

（八ツ尾山国有林について）現地見学で高性能林業機械による伐採・搬出作業が見られず、物足りなかった。参加者層がバラバラなので、調整が難しいと思うが、知りたい事・見たいことを募集時点で確認できるようにするのが良いのではないかな。

（八ツ尾山国有林について）作業道が狭いため、大型の重機の使用が困難なために経費がかさむが、木材の市場価格が低いために収益に繋がりにくいということを理解したと共に、こうした状況では私有林が放置されるのも仕方がないと感じた。

（一丈野国有林について）あのような形で開放しているのであれば、道の整備や名所の看板等の楽しさの演出が必要である。トイレ等も整備し、また来たいと思えるような環境整備を行うことが必要なのではないかな。

2. モニター会議に対する意見等

意見交換会では参加者全員の方々の意見を共有でき、違った面から考察や考えが深まった。意見交換の時間をもう少し長く取っていただけるとなお良かった。

モニター会議に参加していた方が全員 40 歳以上であることが気になった。未来の日本の国土を守っていくうえで、若者の興味関心を引くことは必要不可欠であると思うので、そういった若者の興味を引くような取り組みがあれば良いと思う。

3. 国有林野事業や、森林・林業全般に対する意見等

国防、防災等の観点から森林管理は重要な要素であるが、植林～伐採、製材等々のコストを考えると赤字の状況が避けられない状況であることを知った。

民有林を国有化してほしいという意見が参加者の中から挙がったが、国有化には税金の投入が必要であることから、予算・費用の面で不安である。

森林環境税には賛成であるが、国民の理解が進んでいるとは言い難く、増税されるという意識だけが先行していると感じている。小中学生への出張授業や効果的な広報活動を通じて、森林に興味のない層へもアプローチが必要になるのではないかな。

資金援助や教育を通じて今増え続けている課題と作業に対して、森や野山に関心がある NPO 法人や市民の愛好家といった民間の力を借りるのも手ではないかな。こうした団体へ教育による援助等を行い、ノウハウを蓄積することが重要である。